

日常のなかで、 音楽に出会える場をつくる

音楽のおもちゃ箱の実践から見る、
アートの“はたらき”

ラーニングプログラム

「はなす、あるく、きいてみる」Vol.1
まちをつなぐアートの“はたらき”



音楽のおもちゃ箱

一般社団法人音楽のおもちゃ箱
代表理事 大橋端月



今日お話しすること

1. 音楽のおもちゃ箱とは
2. 日常の中に音楽の入口をつくる
3. 乳幼児親子向けの音楽体験
4. 学校・地域へのアウトリーチ
5. どなたでもコンサート
6. 「どなたでも」を支える場の設計
7. 演奏者も安心して活動できる場づくり
8. 担い手が育つと、地域に還元される
9. 新しい複合施設に向けて
10. 最後の問い

「どなたでも」は、参加する人だけでなく、演奏する人・担い手側にも必要な視点。

地域施設・福祉施設・園・
学校等へのアウトリーチ開始

- ・ 別なコンサートでの「気づき」から
- ・ まずは やってみる

地域で活動する音楽家の場づくり

日常の中に、音楽の入口をつくる

音楽に「来てもらう」だけでなく
音楽の方から、日常へ出ていく

文化芸術は、
「特別な人」
「特別な日」
のものになりやすい。



だからこそ、
日常の中に
小さな入口をつくる。

入口をつくる / 日常へひらく / 出会いに行く



事例① 乳幼児親子向けの音楽体験

「泣いたら迷惑かも」から 「ここにいていい」へ

- ・ 0歳から参加できる
- ・ 泣いても、声が出ても、
動いても大丈夫
- ・ 親子で一緒に聴く、動く、参加する



▲ 毎月開催している主催事業

不安 ▶ 安心

鑑賞 ▶ 親子の体験

音楽会 ▶ 居場所

事例② 学校・地域へのアウトリーチ（訪問演奏）

いつもの場所が、
文化芸術に出会う場所になる

学校

保育園幼稚園

市民センター

地域施設

児童館

福祉施設

ホールに行く



日常の場所で出会う



▲ 子育て支援センターへの訪問演奏

出向く ／ 近い距離 ／ 地域の中の文化体験

事例③ どなたでもコンサート

いろいろな参加の仕方があっていい

どなたでもコンサートとは

このコンサートは「どなたでも」気軽に鑑賞でき、一緒に楽しむことを目標としたコンサートです。
“お互い様”の精神で、ゆったりとした心を持ち、舞台をお楽しみください。

バリアのないクラシックコンサート

通常のクラシックコンサートにあるバリア（壁）を、無くす工夫をしています。鑑賞に年齢制限はありません。また、演奏中に少し声が出て、動いて音が出て大丈夫です。演奏中の入退室も可能ですので、お子さんのクールダウンにもおすすめです。また、事前に主催者へ知らせておきたい配慮事項等ございましたら、お電話やメールにてお知らせください。スタッフやお席の数に限りがあり、当日対応は難しい場合もあります。事前にご連絡いただくと大変ありがたいです。例えば：「車いすや医療用バギーで行くので、車いす席を使用したい」など。

休憩室（センサリールーム）があります

大きな音や強い光が苦手、じっとしていることが苦手等の感覚過敏が理由で、コンサートを会場で楽しむことが難しい人が安心して過ごせる空間です。耳当てやデント、クッションにおもちゃとお子様が楽しめるアイテムを準備しています。

京さとみ (@satomi.kyo)

運営団体：プラスクロス、市民スポーツボランティアSV2004



- 全席自由席
- 0歳から入場可能
- 声が出て動いても大丈夫
- 上演中の入退室可
- 客席は、薄明るい
- 駐車場あり
- 車椅子席 医療用バギー席あり
- ベビーカーOK
- 多目的トイレあり
- 補助犬 同伴OK
- 休憩室あり (センサリールーム)
- 休憩室へ同時中継
- 朗読の 日英語字幕付き
- イヤーマフ 持込OK
- 英語案内人がいます

それぞれの参加の仕方を大切にする

静かに聴ける人のための場



いろいろな人が一緒にいられる場

事例③ どなたでもコンサート

本映像は来場者の許可を得て撮影しています

© (一社) 音楽のおもちゃ箱



「どなたでも」を支える場の設計

「誰でもどうぞ」だけでは、届かない

参加しやすさは、設計するもの

事前案内

会場導線

客席配置

途中入退室

音量や照明

休憩スペース

スタッフ共有

声かけ

プログラムの長さ

対象に合わせた進行

場の思想は、

- ・ 空間設計
- ・ 運営設計
- ・ 人の関わり方に、表れる



演奏者も安心して活動できる場づくり

参加するだけでなく、
演奏する人にとっても「どなたでも」

演奏員募集は、公募。入口を広く。

でも、入口を広くするだけではなく、
丁寧に共有する。

- 誰でも安心して参加できる音楽の場
- 参加型プログラム
- 訪問演奏・アウトリーチ
- 音楽が届きにくい層に届ける活動



▲ 公式HPとInstagramにて公募

最初から共有する

演奏家コミュニティが支えるもの

ひとりでは難しいことを、
コミュニティで支える

転勤してきて、
音楽家仲間がいない
▶ ようこそ！

子どもが小さく、
本番に穴をあける不安
▶ カバーし合える雰囲気

参加型が苦手、
できるか不安
▶ 最初からできなくていい

それぞれの
「得意」を活かす
▶ 企画や営業につなげる



▲ 稽古の様子はインスタにて発信

担い手が安心できると、活動は続いていく

演奏員の声・変化

場が変わると、演奏家も変わる

「ただ演奏するだけではない、
お客さんを巻き込んでみんなで作るコンサート」

「地域の子育て世代の居場所をつくることの意味は大きい」

「MCや進行もする大切さと面白さを学びました」

「来る人の立場になって、どうしたら来やすいかを考えるようになりました」



担い手が育つと、地域に還元される

担い手を支えることは、
地域に文化芸術を届けること



演奏家・
団体が
安心して
活動できる

企画や
実践が
育つ

学校、
園、福祉・
地域施設へ
届く

子ども
親子
地域の体験
が増える

地域に
還元される

担い手支援 ／ 活動の継続 ／ 地域への還元 ／ 文化芸術の循環

新しい複合施設に向けて・最後の問い

新しい施設だからこそ、
最初から考えられること

文化施設は、
誰に、どんな入口をひらくことができるのか。

その入口を、
誰が、どのように育てていくのか。

そして、
その活動は、どう地域に還元されていくのか。

この後の対話へ